

平成26年度 観光振興施策の実施状況

観光政策課

1 将来の観光を担う人材の育成

(1) 観光に対する理解と関心の醸成

○小中高等学校での学習の推進

- ・幼稚園児から小学生までを対象に、郷土徳島を理解し、楽しみながら徳島の魅力を学習するために配布した「阿波とくしま観光かるた」を使って「第5回阿波とくしま観光かるた大会」を開催した。

◆第5回阿波とくしま観光かるた大会：平成27年1月18日開催
参加者 333名 ※過去最多

○郷土を再発見できる講座の開催

- ・国定公園指定50周年を迎えた剣山に関する講座など、「にし阿波」の優れた自然や歴史、文化などの魅力を再発見する「地域づくり実践講座」を開催した。

○郷土について学びたい方への学習情報の提供

- ・「県民“まなび”拠点」である徳島県立総合大学校において、高等教育機関や民間教育機関、NPO、市町村等の関係機関との連携を推進し、より充実した生涯学習情報をワンストップで提供した。

(2) 「おもてなしの心」を生かした観光客の受け入れ

○主要観光地等でのガイドによる対応

- ・「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」のプラットフォームである「そらの郷」を核として、更なる地域資源の発掘・改善により、滞在プログラムの作成を行うとともに、ガイド育成研修等を行った。

○観光講座の充実

- ・四国観光達人や観光事業従事者を対象とし、着地型旅行商品を造成する人材育成研修事業を実施した。

(3) 観光の振興に寄与する人材の育成

○観光従事者向け研修の実施

- ・体験型観光に精通した専門家からのアドバイスを受けながら、コーディネーターのレベルアップを図るための研修会を行った。また、新たな地域における体験型観光をコーディネートする組織を整備するなどの取り組みを促進した。

○外国人観光客に対応できる人材の育成

- ・JNTO（日本政府観光局）の有する世界的ネットワークを活用し、国際観光情報を収集した。また、収集した情報を活用しながら、徳島県国際観光テーマ地区推進協議会において県内の国際観光に携わる関係者を対象として研修を行った。

- ・徳島県国際交流協会（TOPIA）を核に外国人の生活利便性の向上、Wi-Fiスポットの運営などICTを活用した世界に開かれた情報受発信機能の構築、多言語能力が活かせる人材バンクの整備及びマッチングシステムの構築、関係機関との連携による「地域の国際化」を推進する拠点機能の充実を図った。
- ・外国人観光客に対応する人材育成のため、接客に役立つ外国語会話や外国人をおもてなしする上でのマナーや心構えを習得する語学講座を開催した。

【個別目標の進捗状況】

○ボランティアガイドを育成する講座の開催やネットワークの構築を図るなど、ボランティアガイド団体の活動が県内各地において順調に行われている。

2 「阿波とくしま」の魅力あふれる観光地づくり

(1) 住んでよし、訪れてよしの観光地づくり

○観光客との交流が生まれる観光地づくり

- ・三好市落合集落の空き古民家2戸を改修し、体験型宿泊施設として活用するとともに、美波町の漁家集落の空き漁具倉庫1戸、空き古民家1戸を改修し、地域コミュニティの場や観光スポット等の案内施設として活用した。

○地域が一体となって取り組む観光地づくり

- ・地域の人と地域の日常を体感してもらうにし阿波体感プログラムイベント「にし阿波と恋する時間～あわこい～」の事業者公募を行い、観光まちづくりの推進を図るとともに、ケーブルテレビ等による情報発信により、圏域内及び近隣県での認知度向上を図った。
- ・「剣山国定公園」指定50周年を契機に、剣山の美しい自然を次世代に継承するための自然保護活動等に積極的に取り組むとともに、地域の宝である剣山の魅力を情報発信し、観光誘客や地域活性化の促進を図った。

○人にやさしい観光地づくり

- ・「観光ユニバーサル大賞」において、外国人を含めた県外からの観光客が安全に安心して快適に利用できるような取組等を行っている個人や団体を顕彰していくことにより、観光客をもてなす県民意識の醸成とまちづくりの取組みを一層推進した。
- ・観光地の魅力を向上させるため、観光客が安心して訪問できるような案内標識や外国人にもわかりやすい多言語表記による案内標識の整備を行った。また、既設案内標識の英語表記の改善に取り組み、主要交差点から連続的に道路標識を整備するなど、主要観光エリアへの道路案内の充実を図った。

(2) 観光資源の育成

○四国八十八箇所巡りと県内各地での観光の組み合わせ

- ・各地の自然や、四国八十八箇所をはじめとする歴史的・文化的遺産などに親しみながら、歩いて四国を一周できる「四国のみち」の整備を推進した。

○伝統芸能の振興、活用

- ・「徳島市阿波おどり」の際に、無料棧敷やにわか連、総合案内所の運営、交通円滑化の事業に助成するとともに、県外客への県庁外来駐車場の開放や駐車場情報の提供を行った。
- ・「はな・はる・フェスタ」への助成を通じて、「春の阿波おどり」を活用した誘客を図った。
- ・練習風景も誘客に繋がる貴重な観光資源であることから、多目的ホールの空き日を「はな・はるフェスタ」及び「夏本番の阿波おどり」の練習場所として提供し、観

光客等に観覧して頂き、にぎわいの創出やおもてなしの向上に努めた。

- ・「とくしま・INAKA博覧会」を「おどる宝島！とくしまキャンペーン」に連動させ、「おどる宝島！とくしま博覧会」として、オープニングイベント「秋の阿波おどり」を開催した。

◆来場者数 17,000名

- ・県外でのイベントや観光キャンペーン等に「阿波おどり」を派遣し、その魅力を実際に体感してもらうことにより、本場徳島への誘客を促進した。
- ・カルチャーセンターにおいて「阿波おどり講座」を開講し、踊りを習得していただき、集大成として阿波おどりツアーを実施し、より深く阿波おどりの魅力を伝えた。
- ・県民の誇りや心豊かな暮らしを創出するとともに、国内外との交流促進による地域の活性化を図ることで「文化立県とくしま」を実現させるため、「徳島ならではの文化資源を活用した地域活性化モデルの構築」「音楽文化が息づくまちづくり」「文化の力によるまちづくりに意欲的に挑戦する市町村や文化団体への多面的支援」などを行う「文化立県とくしま推進事業」を実施した。

○伝統工芸の振興、活用

- ・東京の百貨店での工芸品展に、阿波和紙が出展し、伝統的工芸品産業の振興を図った。
- ・「徳島県伝統的特産品」として指定された産業の事業者等の製造意欲の高揚とその伝統的な地場産品の育成振興を図るため、インターネット等で情報発信し、県産品の育成・振興を図った。
- ・阿波おどり会館の「あるでよ徳島」で、藍染め、しじら織シャツの販売を実施し、地場産業の振興を図った。

○宿泊施設、飲食店等における地元食材の活用

- ・阿波尾鶏指定料理店、徳島産はも指定料理店、地産地消協力店の登録の推進により、徳島ならではの食を提供した。

○観光資源の掘り起こし

- ・LEDを効果的に取り入れた光の名所と呼べる場所やモニュメント等を「光の八十八ヶ所」として認定し、広く情報発信することにより、「LEDと言えば徳島！」という地域ブランドの確立を図った。
- ・文化の森総合公園各館において、年間を通じ企画展等を開催し、徳島の文化創造活動の発展を支える拠点として、観光客の誘致を図った。
- ・にし阿波体感プログラムイベント「にし阿波と恋する時間～あわこい～」において、地域の人が地域の魅力を再発見することにより、新たな特産品・土産品を掘り起こし、地域の魅力アップを図った。

(3) 郷土料理や物産など総合的な魅力向上

○農林水産物のブランド化

- ・「高品質・安全・安心」をはじめ、消費者ニーズに的確に応える「感度の高い」産地づくりを実現するため、地域段階での取組みの加速化、「とくしま特選ブランド」の登録拡大、高速ネットワークを活用した新たな流通システムの実証などを促進した。
- ・「新鮮 なっ！とくしま」号の機動力を活用して、徳島ヴォルティス試合会場での効果的な情報発信や、「とくしまブランド協力店」「美味しいよ！とくしまブランド店」など各種機能をフル活用した積極的なPRを展開した。
- ・危機管理体制を強化するために、種鶏舎の分散配置にかかる施設の整備とX線異物検出装置の導入を支援した。

○農林水産物直売所の活用

- ・地産地消協力店の登録を推進し、県産品の活用及びPRの拡大を図るとともに、直売所のステップアップのための研修会を開催した。

○消費者等へのアピールの場の提供

- ・「阿波とくしまアンテナショップ」を新たに認定するとともに、既認定店のPR支援を行った。

(4) 地域の観光の振興に関する総合力の向上

○観光地の連携による周遊型観光の推進

- ・本県の認知度向上や観光客の増加を図るため、パスポート形式のスタンプラリーを行うなど、広域的な観光ルートの開発や発信に努めた。
- ・「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」や「AMA地域連携推進協議会」等の事業活動をサポートし、成果を高めるため、同エリアへの公共交通機関を使った旅行商品やモデルコース等の情報発信に努めたほか、二次交通機関としての路線バスや定期観光バス、周遊タクシー、レンタサイクル事業等を紹介した。

○観光地における表示の統一

- ・関西広域連合において、訪日外国人観光客の広域観光の利便性向上を目的に策定した「関西全域を対象とする観光案内表示ガイドライン」や、観光庁が策定した「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」により、自治体等が基本的な考え方（コンセプト）を共有できるよう周知を図った。

○観光に関する情報の共有化

- ・「阿波ナビ」などを活用し、イベント情報などの共有化を図った。
- ・室戸阿南海岸国定公園指定50周年を契機に、県南海岸域の魅力を全国にPRするためB級マリンスポーツや自転車イベントの開催、関西圏からの誘客を進めるモニ

ターツアーの実施など、県南エリアの新たな活用策を提案することで、観光誘客を促進し、県南地域の振興を図った。

(5) 自然環境及び良好な景観の保全

○自然体験活動等を通じた環境学習の推進

- ・環境学習を通して小中学生の問題解決力を育むため、地域と学校等が連携し、コミュニティを通じた環境学習が実践できるよう、アドバイザーの派遣や学習教材の提供などの支援を行った。また、環境学習の取り組みが広がるよう、環境活動成果の発表会を実施した。
- ・「県立神山森林公園イルローザの森」の適正な管理運営を行うとともに、県外客に対する情報発信や子供を対象とした「木育」の活動拠点の整備など、森林公園への誘客と施設の充実を図った。

○環境と景観の美化

- ・アドプト・プログラム吉野川を推進し、吉野川の環境美化を進めた。
- ・「ごみゼロの日」キャンペーン、「遍路道の清掃活動」をはじめ、各地域、各環境ボランティア団体とともに協働して、環境と景観の美化に向けた普及啓発に取り組んだ。
- ・住民と行政が協働で道路景観の向上を図り、地域の歴史・文化や自然を活かした地域づくりを支援する「とくしま風景街道」の取組を推進した。
- ・「とくしまマラソン」のコースとなっている吉野川において、雄大で風光明媚なその魅力を最大限に輝かせるため、ボランティア団体等と連携し、河川堤防等を桜など四季折々の花々で彩った。

(6) 観光客の利便性の向上

○着地型観光での利便性の向上

- ・全国に配布されるアウトドアイベントのパンフレットに、スポーツ以外の情報サイトの案内を行い、圏域の魅力について情報発信を行った。
- ・「にし阿波お勧めビューポイント」をHPやパンフレットなどにより広くPRし、「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」の魅力向上につなげた。また、「ビューポイント」をつなぐ周遊コースの追加設定、剣山国定公園指定50周年記念事業「未来へ伝えたい！『地域の宝』フォトレーター」の募集等により、にし阿波のすばらしい観光資源をPRすることで、観光客の当地への来訪滞在の促進を図った。

○クレジットカード等の利用による利便性の向上

- ・銀聯カード使用可能店舗の情報収集および情報提供を行った。

○交通アクセスの向上

- ・徳島小松島港沖洲（外）地区において、物流・防災機能の強化を図るため、大型船

船に対応した耐震強化岸壁やふ頭の整備を行った。

○二次交通の整備

- ・地域住民の生活交通手段を確保するため、地域間の幹線となるバス路線を支援することにより、観光客にとっても広域の移動手段が確保され、利便性が向上した。

○道の駅での的確な情報提供

- ・市町村と連携しながら産直市が楽しめるなど、地域の交流拠点や情報提供拠点となる「道の駅」の整備を推進した。

○駐車場の確保

- ・徳島市阿波おどりの開催期間中、県外ナンバーの車両に対して県庁駐車場を開放し、観光客の利便性の向上を図った。
- ・鳴門公園への観光客が集中するゴールデンウィークやお盆期間中において、無料駐車場の設置や無料シャトルバスを運行するなど、地元の市、関係事業者、指定管理者と連携し、渋滞の緩和対策を行った。

(7) 安全及び安心の確保

○事故、災害発生時の迅速かつ的確な情報提供

- ・防災・危機管理情報「安心とくしま」ホームページにおいて、大雨に関する情報はじめとした様々な危機事象について、迅速かつ正確な情報の周知に努めた。

【個別目標の進捗状況】

- ・地産地消協力店については、飲食店や量販店のほか、農作物直売所の登録がすすみ、順調に増加している。
- ・「新鮮 なっ！とくしま」号の展開による「徳島ならではの」のPRや「とくしまブランド協力店」・「美味しいよ！とくしまブランド店」の登録により、大都市圏におけるPR体制及びブランド力の強化に取り組んでいる。

3 新たな観光旅行の開拓と滞在型観光の推進

(1) 新たな観光旅行の開拓

○グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムの推進

- ・「南阿波よくばり体験」、「そらの郷山里物語」を中心とした体験型観光について、地域が一体となった取組について支援した。

○エコツーリズムの推進

- ・本県の優れた自然景観を有する自然公園の整備等を行った。

○メディカルツーリズムの推進

- ・東アジアや東南アジアに対象エリアを拡大し、海外に向けた情報発信や人材育成に努めるとともに、医療観光での旅行商品造成に対して支援を行った。

○産業観光の推進

- ・産業観光を組み込んだ魅力ある旅行商品の造成に努めた。

○食を活用した観光の推進

- ・徳島ラーメン、豆天玉など徳島特有の食文化の情報発信を積極的に行い、観光客の来訪の促進に努めた。
- ・「梅酒まつり」、「四国酒まつり」等イベントへの協力により、周遊型観光の誘客を推進した。
- ・「徳島の活鱧」のブランド品目としての確固たる地位を築くため、首都圏における需要の新規開拓や「日本三大はも祭り！」でのPR強化を行った。また、県内への入り込み客数の増加を図るため、観光関係団体と連携し、「はも」をはじめとした徳島の美味しい魚と店舗情報を発信した。

○参加・体験型教育旅行の誘致

- ・教育旅行の誘致拡大のため、教育関係者や旅行エージェント担当者の招聘等を行うなど、積極的かつ効果的なPRを行った。
- ・関係機関の連携により、「交流の質」を高め、受入を支援するとともに、韓国・台湾・中国・シンガポール等の有力地域を対象に、学校・旅行社等への積極的な誘致活動を行い、相手のニーズに応じた本県の魅力（体験型観光、伝統文化等）を発信した。
- ・修学旅行や校外学習などの教育活動で、阿波人形浄瑠璃関連の施設や農村舞台を恒常的に活用し、その魅力を体験してもらうため、関係各団体等と連携し、児童生徒を対象とした体験プログラムを構築した。また、関西圏を中心に広報し、誘致を進めるとともに、教育・観光資源としての環境整備や実施スキームの確立に向けて、モデル体験公演を実施した。

(2) 観光客の滞在促進

○観光資源の特色を生かした観光プランづくり

- ・激化する地域間競争の中、本県に着地する観光客だけでなく、四国の他エリアを周遊しようとする観光客を積極的に呼び込み、徳島で滞在し、宿泊していただくための「きて・みて・なっとく！」できる魅力の造成、発信を行った。
- ・本四高速道路の全国共通料金制度の導入や各種周年記念といったトピックを活用し、個人旅行の誘客促進（パスポート参加施設の充実、キャンペーンブック・サイト制作他）や旅行商品の造成促進（旅行エージェント商談会の開催、JR四国とのパートナーシップによる情報発信他）により、県内への観光客および宿泊者の増加を目指した。
- ・阿波ナビやおどる宝島！とくしま博覧会などで紹介・発信するとともに、新しい旅行プランの提案にボランティアガイドを組み込むほか、ボランティアガイドの育成のための研修なども実施した。

【個別目標の進捗状況】

- ・とくしま農林漁家民宿の開業支援と育成のための組織作りの推進や、人材育成を図り、積極的にPRした結果、体験宿泊者数は順調に増加している。
- ・本県の持つ豊かな自然や食材等を利用し、教育旅行の誘致・受け入れに積極的に取り組み、体験型教育旅行における協議会受入泊数は順調に増加している。

4 情報発信の強化による「観光とくしまブランド」の確立

(1) 徳島県の魅力に関する情報発信

○人的ネットワークの活用

- ・ 関西広域連合内シルバー大学校等との間で、今後の連携について意見交換を行うとともに、「阿波十郎兵衛屋敷での観光ボランティア」などの取組みについて情報発信を行った。

○インターネット、携帯サイトの活用

- ・ 県産品約700品をネット販売するとともに、観光・物産の情報発信を行った。
- ・ 集客力のあるインターネットショッピングモール「楽天市場」に出店し、県内事業者の電子商取引の推進を図った。
- ・ 「新鮮なっ！とくしま通信」による「県産農林水産物」や「とくしまブランド協力店」、「美味しいよ！とくしまブランド店」等の情報発信を行った。

○情報発信拠点の充実

- ・ 観光情報サイト「阿波ナビ」の内容の充実を図った。
- ・ 県外本部内観光コーナー、都内アンテナショップなどのPRコーナーにおいて、観光ポスターを展示するとともに、各種観光パンフレットを旅行業者や来客者に提供した。また、各種イベントにおいても積極的に観光情報の提供に努めた。
- ・ 県民や県外からの観光客に対し、県内で開催されるイベント等の情報を、道路情報板を用いて提供した。

○県民一人一人の情報発信力の向上

- ・ 徳島県立総合大学校において、インターネットやパソコンについての講座を開催し、県民のスキルアップを支援した。

○口コミの活用

- ・ クチコミ情報サイト「旅のクチコミ」により、情報の収集・発信を行った。
- ・ 「阿波ナビ」等で「とくしま観光おすすめ隊」からの情報の発信を行った。

○大都市圏でのアンテナショップの活用

- ・ 全国に向けた、徳島県産品・観光の情報発信や県産品の販路拡大を実現するため、県外物産センターの運営や「阿波とくしまアンテナショップ」認定支援、コンビニ協働事業を活用したアンテナショップの展開を図った。

○観光・物産展の開催

- ・ 県外観光客等に対して、「徳島阿波おどり空港」の搭乗待合室に設置した「徳島県物産展示コーナー」の効果的な管理運営を行い、物産・観光の積極的な情報発信を

行った。

- ・「全国井サミット」開催による「四国の右下」の認知度向上や、農商工連携による新商品の開発、販売拡大に取り組み、地域活力の向上を図った。

○総合的な情報発信活動の強化

- ・本県の認知度向上や観光客の増加を図るため、他県と連携し、パスポート形式のスタンプラリーを行った。
- ・近畿圏等との交流拡大を図るため、近畿圏等の府県と広報紙等のスペースを交換し、「本県の魅力発信」を行った。
- ・徳島の魅力を伝えるための「共通コンセプト」の確立を図り、県全体としての「イメージ戦略」を構築することにより、インパクトのある情報発信を戦略的・効果的に展開した。
- ・県産農林水産物や本県の知名度の向上、とくしまファン獲得を図るため、「阿波おどり」と「すだちくん」との連携等によるインパクトのある効果的な全国プロモーションや、徳島ヴォルティス試合会場でのとくしま情報の発信等を戦略的に展開し、とくしまの魅力を全国に発信した。

(2) 様々なマスメディアによる魅力の発信

○ロケーションブランドの確立

- ・「徳島県ロケーション・サービス」を中心に、積極的にロケの誘致、支援を行った。

○マスメディアの露出効果の継続的活用

- ・様々な手段を活用して、県内ロケ地やロケ適地の情報発信を行った。
- ・人口・情報・経済が集中する首都圏、中京圏、近畿圏の「三大都市圏」において、全国ネットのテレビ番組や新聞、情報誌、ケーブルテレビなど、様々なメディアを活用し、本県の魅力発信に取り組んだ。
- ・生産者団体等と連携し、メディアや大手企業に向けた積極的なプロモーションとともに、大消費地の店舗内等で新たな手法による情報発信を行い、「とくしまブランド」の認知度の向上と販路拡大を図った。

(3) 旅行商品づくり

○旅行会社への積極的な情報提供

- ・旅行会社やメディアへの積極的な情報提供や企画提案により、魅力ある商品造成や誘客の促進を図った。

【個別目標の進捗状況】

- ・「新鮮 なっ! とくしま」号を活用し、「とくしまブランド協力店」を核とした「徳島ならでは」のPRを展開した。

5 国際観光の推進

(1) 外国人観光客の来訪促進

○伝統文化等を活用した海外における観光宣伝活動

- ・海外において「阿波おどり」を披露し、広く海外に本県の魅力を発信した。
- ・春・秋の「マチ★アソビ」をさらに魅力あるイベントに向け支援を行うとともに、「アニメの聖地 徳島」として国内外に積極的に情報発信を行い、交流人口の拡大を図った。

○ターゲットを絞った誘客活動

- ・自然、文化、食等の本県の魅力や、アニメ、体験観光、医療観光など本県の強みを、東アジア、東南アジアの重点エリア等においてプロモーション、情報発信を行うとともに、商品造成に対して支援を行った。
- ・台湾（台北、台中、高雄）において訪日教育旅行誘致説明会を実施するとともに、韓国の教育旅行を四国地域に誘致するため、他県のコンベンションビューローと連携し、韓国の旅行会社を対象にVJ地方連携事業に取り組んだ。
- ・シンガポール及びロサンゼルスでの営業活動及び情報発信を行った。

○海外からの誘客活動の推進

- ・四国及び関西エリアにおいて、広域に及ぶ観光資源を相互に連携し、一体的な情報発信を通じて誘客を促進した。
- ・外国クルーズ客船の誘致による地域活性化を図るため、積極的なポートセールスや客船への支援制度創設のほか、客船の受入態勢を強化し、徳島の魅力を発信することで、誘致活動を戦略的に推進した。

○外国語パンフレットによる情報発信

- ・観光パンフレットを自治体国際化協会及びJNTOの海外事務所に設置するとともに、海外で開催される旅行博覧会や様々なイベントにおいても配布し、積極的な情報発信によるPRを行った。

○インターネットを活用した外国人向け情報発信

- ・県の公式ホームページ（外国語版）、国際戦略センターのホームページ（外国語版）、Facebookページ「Discover Tokushima」（英語版）、国際観光メールマガジン（外国語版）等により、多言語により外国人向けに情報を発信した。

(2) 外国人観光客の受入態勢の整備

○外国語表記の推進

- ・市町村や国際観光関係者と連携して、観光案内板等の多言語表記を促進した。

○外国人観光客への案内サービスの向上

- ・外国語対応相談員をとくしま国際戦略センターに配置し、外国人観光客等に対する情報提供や相談対応を行った。

○国際チャーター便の活用

- ・徳島阿波おどり空港を通じた本県経済活性化や国際交流促進を図るため、国際連続チャーター便への助成制度を設けるとともに、現地における積極的なエアポートセールスを実施した。

(3) 海外との相互交流

○海外とのネットワークづくりによる相互交流の活性化

- ・友好関係にある地域との交流を推進するとともに、東南アジア等新興国からの研修生の受け入れや在外県人会との交流事業等を通じ、国際人材の育成や地域の国際化を積極的に推進した。
- ・本県と友好協定を締結しているドイツ・ニーダーザクセン州との間で、生徒及び教員が相互訪問することにより、異文化理解や英語によるコミュニケーション能力の育成を図った。

【個別目標の進捗状況】

- ・東アジア、東南アジア等の旅行会社及びメディアによるファムツアーは順調に増加しており、視察や商談会などを実施して旅行商品の造成や観光誘客を推進した。

6 広域観光の推進

(1) 広域的な観光地の形成

○観光地の連携による滞在型観光の推進

- ・本県の認知度向上や観光客の増加を図るため、兵庫県（淡路島）と連携し、パスポート形式のスタンプラリーを行った。
- ・宿泊施設の均質なサービスの提供及び改善・向上を図るため、先進観光地との連携により、観光品質基準の導入に向けた調査研究及び実用化に向けた課題の抽出、体制整備等を行った。

(2) 四国4県及び関西圏の連携

○近隣府県と一体となった観光への取組

- ・「四国ツーリズム創造機構」と連携し、四国はひとつとしての官民一体となった観光の推進に取り組んだ。
- ・「淡路島&徳島とくどく周遊ガイド」の作製・配布や、「とくしまツーリズムバス事業」により、兵庫県との連携を図った。
- ・瀬戸内海に隣接する7県が連携し、「瀬戸内ブランド」の形成を目指して、プロモーション活動等を実施した。
- ・四国や近畿の各府県と連携協力し、子育て家庭を対象に、協賛店舗・施設等で割引やプレゼントなどの優待サービスを提供する事業を実施することにより、親子がふれあいを深める機会づくりを応援し、各地で『とくしま子育て応援BOOK』を配付することにより、四国や近畿での交流促進を図ることができた。

【個別目標の進捗状況】

- ・四国ツーリズム創造機構において新たな観光モデルプランを策定し、四国の広域観光モデルルートは順調に増加している。
- ・兵庫県と連携したバス団体旅行への支援については、国内外の団体に多く利用されており、広域観光の推進に結びついている。

7 「阿波とくしま」らしいにぎわいの創出

(1) イベントの開催などによる集客

○既存イベント等の改善や組み合わせによる集客力の向上

- ・全国に向けた、本県の県産品・観光の情報発信や県産品の販路拡大を促進するため、認定アンテナショップの実施するイベントに協力しながら、同店舗のPRを実施した。また「新鮮なっ！とくしま号」がJ1スタジアムなど全国に出動し、徳島の観光や県産品など徳島県をまるごと売り込んだ。

○新たなイベント等の創出

- ・徳島市中心市街地において、アニメを核としたイベント「マチ★アソビ」を春・秋の2回開催した。また冬のアニメイベント「ぷち★アソビ」を開催し、四季を通じたにぎわいの創出を図った。
 - ◆マチ★アソビvol.12 平成26年5月3日～5日 参加者：70,000人
 - ◆マチ★アソビvol.13 平成26年9月27日～10月12日 参加者：57,000人
 - ◆ぷち★アソビvol.3 平成27年3月14日～15日 参加者：8,000人
- ・万代中央ふ頭において、にぎわい空間の創出を実現するため、にぎわいの定着と新たな利活用者が自立するためのサポートを行った。
- ・県民の遍路文化への理解を深めるとともに、世界遺産登録に向けて気運の醸成を図るため、四国4県連携事業として、空海の足音 四国へんろ展（徳島編）を県立博物館で開催した。

(2) コンベンション誘致

○コンベンション実施主体への助成

- ・大規模な大会等に対し、その開催経費について助成を行い、観光とコンベンションの総合的な振興を図った。
- ・国内・国際コンベンションの誘致を促進するため、開催計画などの情報収集と意向調査に努め、関係団体等にその情報提供を行った。また、魅力あるアフターコンベンション情報を主催者に対して的確に発信し、県内での滞在日数や周遊箇所数の拡大に努めた。

(3) スポーツによるにぎわいづくり

○交流人口の増加

- ・平成26年4月20日に第7回大会「とくしまマラソン2014」を、平成27年3月22日に第8回大会「とくしまマラソン2015」を開催した。
- ・サイクルスポーツを通じた新しい魅力を創り出すとともに、県内でのサイクルスポーツイベントの充実と継続的な開催を図り、全国に向けて「自転車王国とくしま」のブランドを発信した。

○プロスポーツチームの集客力や情報発信力を活用してのにぎわい創出

- ・徳島ヴォルティスのJ1参戦に伴い、ツアー造成支援や首都圏における電車内広告、サッカー雑誌への広告、県外で行われる試合会場での観光PR・物産販売など、サッカー観戦だけでなく、本県への観光・宿泊につながるよう情報発信を行った。
- ・優秀選手の表彰、小中学生グループ招待を実施した。また、「徳島ヴォルティスホームタウン協議会」によるホームゲームを活用した連携事業を実施した。

【個別目標の進捗状況】

- ・積極的なコンベンション誘致活動、開催助成金の支給等により、コンベンション参加者数は増加している。
- ・平成26年4月20日に第7回大会「とくしまマラソン2014」を、平成27年3月22日に第8回大会「とくしまマラソン2015」を開催し、ボランティアや地元の方々の協力のもと、「徳島ならではの」の応援や「おもてなし」などで本県の魅力をアピールし、にぎわいの創出を図った。